

## 大島紬製造工程画像記録DVDの作成

大島紬部 ○徳永嘉美, 福山 秀久, 恵川 美智子, 平田 清和

### 1. はじめに

国の伝統的工芸品である大島紬は生産量の減少及び従事者の高齢化のため、製造工程である図案、緋締め加工、染色、製織等に係る工程の技術継承や人材育成が困難な状況になっている。このため、大島紬の製造技術全工程の画像化による技術保存を行い、技術の継承及び人材育成に役立てることを目的とした。

撮影・編集は奄美市の映像プロダクションに委託し、概要版、図案、準備・緋締め加工、染色、仕上げ加工・製織、概要短縮版（ダイジェスト）の全6巻のDVD（図1）を制作した。

制作したDVDは県民の皆様を活用して頂くため、県立図書館、県立図書館奄美分館、奄美市役所、本場奄美大島紬協同組合、本場大島紬織物協同組合に配布した。

本事業は、平成24年度に、緊急雇用創出事業臨時特例基金事業を用いた「大島紬製造工程画像記録事業」として取り組んだものである。

### 2. 内容

#### 2. 1 第1巻：概要版（44分51秒）

概要版では最初に大島紬のトータルな魅力を紹介し、大島紬がどのようにして生まれ、発展、変化していくのかを探り、歴史的、文化的側面の検証も行い収録した。また、反物あるいは着物としての大島紬の種類を柄、染色、織り方別に説明し、各製造工程については、重要となる部分を重点的に収録し、各巻の紹介版とした。

#### 2. 2 第2巻：図案（56分7秒）

大島紬の典型的な柄である龍郷柄について、大島紬図案設計CADシステム「タフコン」（図2）を使用しての作業を、図案士の説明を交えながら解説した。

下絵の読み取りから輪郭線取り、デザインの展開方法、緋詰めなどの作業からプリントアウトまでの一連の流れを収録した。

また、白大島紬のデザイン作成や割り込み式のデザイン作成方法についても「タフコン」を使用して解説し動画映像で収録した。

#### 2. 3 第3巻：準備加工・緋締め加工（75分43秒）

緋締めに入る前の準備加工で、輪（総）の状態の糸をボビンに巻き取る糸繰り、一定の長さに必要な本数を揃える整経（図3）、整経した糸を糊で固める糊張りの作業を、部分的にスローモーション映像を取り入れて解説した。



図1 作成したDVD



図2 タフコンによる作業画面



図3 整経

緋締めに(図4) 関しては、ガス綿糸の綜統通しから緯緋の「交代締め」と割り込み式の緋締め方法の「帯締め」について収録した。経緋締めについては、墨付けの映像から「普通締め」、特殊な経緋締めである「回し締め」、「フカシ締め」、「袋締め」については、図案でのデザイン展開の説明から緋締め方法の映像を収録した。また折り曲げ線上に緋点がある場合の締め方法で「耳括り」という技法があるが、図を挿入して説明を行い理解しやすい映像にした。



図4 緋締め

#### 2. 4 第4巻：染色(44分8秒)

泥染め染色に関しては、テーチ木での染液抽出方法から糸染め、緋筵染め(図5)の作業を収録した。

合成染料による染色については、染色機によるカセ糸染めと緋筵染色を収録し、また摺り込み液の調整方法、摺り込み染色そして草木泥染めの映像も収録した。



図5 シャリンバイ染色

#### 2. 5 第5巻：仕上げ加工・製織(82分46秒)

染色後の仕上げ加工では、緯緋の「筵解き」、緋糸1本ずつに分ける「揚げ杵」、「取り上げ」について収録した。

経緋に関しては、模様の順番に緋筵を並べる「番組」、筵解き後の「仕上げ整経」、「経糸糊付け」から経緋糸を1疋分ずつに割り振る「仕上げ」(図6)さらに、1疋分ずつ巻き取る「板巻き」作業について収録した。



図6 経緋仕上げ

製織に関しては、龍郷柄の原料を使用して収録した。

模様のない経糸を巻き取る「地経巻き」、経糸糸と地経糸を決められた本数ずつ配列する「綾拾い」、経糸を1本ずつ綜統に通す「綜統通し」、経糸2本ずつを箆目に通す「箆通し」と作業の順番を追って映像を収録した。

織りの映像(図7)では経糸の「立て付け」、最初の柄だし方法を経緯緋を織り込んで行く工程から経緋点のずれを調整する「ぬぎだし」作業を収録した。



図7 製織

#### 2. 6 第6巻：概要短縮版(25分44秒)

概要短縮版は、第1巻から第5巻のダイジェスト版として編集作成を行った。

### 3. おわりに

大島紬は、製造に関わる技術者の高齢化や後継者不足などにより、技術の継承が困難となってきた。このため今回、国の伝統的工芸品である大島紬の製造技術全工程の画像化を、技術継承及び人材育成に役立てるために行ったところである。今後は配布先で大島紬の教材として、多くの人々に利用してもらうことを希望する。大島紬画像記録制作にあたり、ご協力頂いた関係者の皆様に感謝の意を表す。